広報 第1278号
■毎月1日・15日発行■発行/日野市■編集/企画部市長公室
〒191-8686 東京都日野市神明1-12-1 TEL.042-585-1111（代）
平成24年 2012 5/1

平成25年
日野市市制施行50周年
スポーツ祭東京2013

紙面から

保留地・市有地などを売り出します…2
日野市ユニバーサルデザイン
まちづくり推進計画(案)への……4
意見を募集
選べる学校制度……5
ひの新選組まつり……8

覚悟を、そして希望を　～いつか思いは叶う～

平成24年度予算を公表

平成24年度は、前年度に引き続き厳しい財政状況の中、歳入に見合った施策の選択と、真に必要な行政サービスの重点化などにより、負担（建設市債）の抑制と蓄え（基金）を維持し、将来世代に負担を先送りしない予算編成としました。　問財政課

総額998億2,380万円
（前年度比0.03%増）

一般会計
517億8,000万円
（前年度比▲3.2%減）

特別会計
480億4,380万円
（前年度比3.7%増）

歳出額を市民１人当たりに換算すると…

※（　）内は前年度比　１人当たり29万313円（▲１万520円減）

民生費　14万7,299円（6,574円増）
高齢者や障害者に対する社会福祉、児童福祉や生活保護のための費用

教育費　3万1,524円（▲9,457円減）
小・中学校教育、社会教育、市民会館、公民館活動、スポーツ活動などの費用

衛生費　2万6,317円（414円増）
ごみ処理、保健衛生、予防接種、環境衛生などの費用

総務費　2万5,996円（▲3,720円減）
庁舎管理、徴税、統計、選挙事務や戸籍、住民登録などに必要な費用

土木費　2万2,651円（▲3,599円減）
道路の新設・維持管理や公園整備、市営住宅の維持管理などの費用

公債費　1万8,843円（145円増）
市債（市の借り入れたお金）の返済のための費用

消防費　1万1,594円（▲370円減）
消防活動、災害対策などの費用

その他　6,089円（▲507円減）
市議会運営、労働、農業、商工振興などのための費用

貯金（基金残高）　3万7,326円（1,448円増）
※当初予算後の額

借金（市債残高）　18万1,687円（▲4,956円減）
※当初予算後の額

※歳出額、基金残高および市債残高は一般会計のもの
市民１人当たりの金額は平成24年４月１日現在の人口178,359人（外国人を含む）で算出

平成24年度予算のポイント

- **削減・抑制が困難な経費の増大**
  民間保育所運営経費や生活保護費・医療費などの社会保障費が、景気低迷の影響や高齢化の進行などを受けて増加しています。
- **市税の減収**
  税制改正により個人市民税は増加しましたが、円高の影響による法人市民税の減少や、評価替えによる固定資産税の見直しなどにより、全体では予算減となりました。
- **事業の重点化**
  厳しい財政状況の中、人件費の削減や既存事業の統合、および休・廃止を進め、同時に保育園の待機児解消策や公共施設の耐震化など、真に必要なサービスを重点的に予算化しました。
- **基金取り崩しおよび市債借入れの抑制**
  災害などに備えるため基金（貯金）の取り崩しを極力抑制し、将来に負担を残さないよう市債（借金）の抑制を図りました。

主な行政課題

1 参画と協働のまち …… 20億1,385万円
- これから先50年のまちのグランドデザインを描く
- 公共施設の計画的な更新
- 市立病院の経営健全化など

2 子どもが輝くまち …… 36億8,505万円
- きめ細かな支援体制の拡充（（仮称）発達支援センター建設工事など）
- 保育園の待機児解消など

3 健やかでともに支えあうまち …… 60億967万円
- 予防接種による病気の予防（高齢者肺炎球菌ワクチン接種助成など）
- セーフティネットの充実など

4 日野人・日野文化を育てるまち …… 1億54万円
- 国体を契機とした日野の魅力発信、地域活性化など

5 自然と調和した環境に優しいまち …… 9億8,718万円
- 計画的な雨水管の整備・緑地保全の推進など

6 安全で安心して暮らせるまち …… 6,128万円
- 災害に備えた施設などの耐震化の促進
- 道路・橋りょうなどの計画的な整備など

7 地域の魅力を生かした活力あるまち …… 41億7,280万円
- ものづくりのまち「工業都市・日野」の再生
- （仮称）ファーマーズセンターの開設など

小分けと小商い

日野市長 熊崎 弘融（ひろみち）

かつてごみ改革を進めたときに「小分け」の必要性を痛感した。家庭から出るごみは劇的に減ったがゼロに近づけたい。それには、全てのごみを集積処理するのではなく、一人ひとりが気づいた時に工夫し、ごみを減らすこと。ごみを小分けして処理する方法である。積もり積もれば削減効果は大きい。例えば生ごみ堆肥化では大量に処理しようとすると無理がでる。少量でも出来る範囲で継続することが秘訣だと思う。

厳しい時代を迎え「小分け」を生かそうと考えていたら、『小商いのすすめ』なる本を見つけた。大震災および原発事故以来いわゆる文明転換期にある今、生き方をどう立て直すかという内容である。国民経済復興論と銘打ち、帯には成長から縮小均衡へ、「日本よ今年こそ大人になろう」とある。著者は文明評論などで活躍されている平川克美氏。

私なりに要旨をまとめてみる。

真の豊かさとは何か。欲望を求め続ける道の外に、禅の戦略、つまり「足るを知る」生き方がある。昭和三十年代の日本、つまり東京オリンピックの頃。物資は不足していたが、小商いする商店街の匂いと吸引力、住民たちの繋がりを思い出して欲しい。

みんな貧乏だったが、明るく頑張った。きちんと責任を取り、自前で生きる大人ばかりだった。余暇は無かったけれど野生と活力があった。成長への条件もあった。それが今、全て崩れている。

これまでの経済や生活の延長線上に未来は無い。成長はもう無理だ。バランスと継続が鍵になる。「小商い」の目線で、地道なヒューマンスケールの経済および生活に縮小均衡せよという論である。

日本の仕組みを初期化し、再起動するときが来たのでしょう。

ふだん着でCO_2をへらそう～宣言世帯35,095世帯、2,515事業所（4月15日現在）

再生紙を使用しています。